

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600200		
法人名	社会福祉法人洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム出町柳		
所在地	京都府京都市左京区田中下柳町18-1 常林寺		
自己評価作成日	平成24年8月21日	評価結果市町村受理日	平成24年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2670600200-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループと連絡をとり定期的に訪問していただき催し物を行っていただいている。 ・近隣の施設(主に保育所)との交流。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域との関りを深めたいとの思いを込めて、昨年度見直したホーム独自の理念の下、日々の散歩や買い物など、利用者と一緒に積極的に地域へ出かけています。近隣の保育園の夏祭りには管理者が実行委員として参画し、利用者と共に祭りを楽しんだり、園児や保護者、地域の方を対象に認知症サポーター講習を開催するなど、地域の方にホームを知ってもらい取り組みの中で交流が深まっています。また詳細で丁寧なアセスメントを実施して、利用者の思いや意向の把握に努め、よりその人らしく暮らせるための支援に活かされています。1階と2階に居室が分かれており見守りやトイレ介助など、ハード面で職員には不便な部分もある中、見守りの強化や日々の確実な申し送りを通して情報を共有し、常に利用者本位の姿勢を保ち、穏やかで安心できる生活の提供に努めています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の実践に向けて目標、課題を設定しカンファレンス等で話しあっている。	昨年度ホームの方向性について職員間で話し合い、地域との関りを深めたいとの思いを込めて、独自の理念を見直しています。理念は玄関に掲示して意識付けすると共に、地域で買い物をしたり、様々な関りを通して、地域との繋がりを深めながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所に訪問したり保育所からの来訪やボランティアを受け入れている。また散歩や買い物の際近隣の方に挨拶買い物や散髪など近隣の店を利用している。	近隣の保育所の夏祭りは管理者が実行委員として参画し、利用者と共にブースを担当して交流したり、保育園児や保護者、地域の方を対象に認知症サポーター講座の開催など、地域の方にホームを知ってもらう取り組みを行っています。日々の散歩で挨拶を交したり近隣の商店で買い物をするなど、地域との交流が深まるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や問い合わせなどがあつた時に認知症について実践で得た経験をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き意見交換、情報交換しサービスの向上に努めている。	運営推進会議は全家族に案内を行い、行事と合わせて実施するなど工夫しながら開催しています。老人福祉委員や民生委員、地域包括支援センター職員などの参加の下、2ヵ月毎に開催し、ホームの状況や活動報告などを行い、参加者から地域の情報などを得て、外出行事に取り入れるなど運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事項があれば連絡していく。	介護認定の更新申請や運営推進会議の議事録の提出には窓口に行っています。分からない事や相談事は法人本部に行っており、本部を通して協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待マニュアルを作成している。また研修などによって周知徹底し身体拘束の意味を理解し実践している。	身体拘束に関する法人研修に参加し、ホームで伝達研修を行い、全職員に周知しています。門は施錠していますが、広い庭は自由に出入りすることが可能です。管理者は、職員に常に自分に置き換えて考えるよう伝えており、利用者が長時間椅子に座り続けることがないようになど具体例を上げて説明し、理解を深め、拘束の無い暮らしの支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等の参加、カンファレンス等で周知徹底し充分理解でき防止できている。		

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修などで学んでいる。必要があれば活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を説明し理解を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスや個別ミーティングにて意見や提案を聞く機会を設けている。	法人による満足度調査や面会時などに意見や要望がないかを聞いています。入浴回数についてなど、個別のケアに関する意見が多く、職員間で話し合いの上、日々の支援に反映させています。またアンケート結果については家族に報告をすると共に、普段から意見を出しやすい雰囲気作りにも努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のミーティングなどで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。必要であれば管理者から事業所長へ報告している。	職員はミーティングやカンファレンス、日々の申し送り時などで意見や提案を行っています。全利用者について確実に申し送る取り組みが、職員の意識改革に繋がり、活発に意見や提案が出されるようになってきました。得られた意見は運営に反映させると共に、意見によっては法人に上げ検討されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の場を多く提供している。また自己評価や個々の実績によって給与の水準を決めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスや法人内で行う研修を全ての職員が受けられるよう機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議などに参加し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時には必ず本人や家族の要望を確認している。本人については日常会話などから本人の希望を引き出せるよう実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用までに見学にきてもらったり相談員を交え話し合い(面接)をする機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員と共に管理者が面接を行いニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者の隔てなく家庭的な雰囲気の中で暮らしていけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もスタッフの一員との意識にもとづいて随時ケアについて相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の面会は定期的にある。家族の支援で時々外泊したり同窓会などに参加されることがある。	友人が訪ねて来られた際は一緒にお茶を飲んでもらったり、リビングや居室でゆっくりしてもらえるよう配慮しています。地元の同窓会や昔住んでいた場所、よく通っていた商店街などへ出かけています。利用者アンケートや会話の中から得られた情報を集めて外出行事に取り入れるなど、関係が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で話しができるよう間を取り持ったり話しやすい雰囲気作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となった利用者や家族にまた相談などあれば連絡いただくよう話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式などを活用し個々のニーズの把握に努めている。確認が困難な方には生活歴や表情からニーズを考えよう努めている。	入居時にアセスメント用紙に生活歴や好み等を家族に記入をしてもらい、日々の関りや会話の中で得られた情報を追記しながら思いの把握に繋げています。把握が困難な場合は家族に相談したり、普段の様子や表情の変化などから思いを把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集に努めセンター方式を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方をよく観察し24時間シートに記入、定期的にあセスメントしスタッフ全員が本人の現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の希望を取り入れアセスメントを行いケアプランを作成している。実施後は定期的にモニタリング(状態が変化したときは随時)し再検討している。	アセスメントを基に介護計画を作成し、入居時は1ヶ月後と3ヶ月後に見直しを行い、その後は6ヶ月毎に介護計画を見直しています。3ヶ月毎に日々の記録や全職員の意見を聞いてモニタリングを行い、介護計画の見直し前は利用者や家族の希望、全職員の意見も聞きながら再アセスメントを実施しています。また介護計画は必要時、医師や看護師の意見を加味しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は言葉や行動をよく観察、記録し、1日の流れや体調の変化がわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を定期的に、また随時確認し要望に応じられるよう努めている。		

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に一度消防署の方に来ていただき防災訓練を行っている。随時ボランティアにきてもらったり、近隣の施設(保育所)へ訪問したり地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望を聞いたうえでかかりつけ医を決め、月に2度往診にきていただいている。医師とは24時間連絡体制があり対応できている。	入居時に希望のかかりつけ医を継続できることを説明し、受診は家族が対応しています。かかりつけ医とは家族を通して情報のやり取りを行っています。月2回協力医の往診や希望による訪問歯科、毎週訪問看護師による健康管理が行われています。看護師との連携用紙や往診情報は色分けして記載するなど、医療情報は確実に全職員に申し送りをし、共有できるよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が健康管理にきている。その都度相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連絡をとり情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、相談員と相談し方針を決定し共有している。	入居時にホームの看取り指針に基づいて説明し、近隣の往診医の確保や家族の協力が得られるなど、条件が整えば支援できることを伝えています。現在看取り支援に取り組んでおり、家族やかかりつけ医など関係者でその都度話し合いながら支援しています。看取りの勉強会が予定され、マニュアルの整備や職員のメンタル面への配慮等も行いながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習を定期的を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の民生委員なども交えて防災訓練を定期的に行っている。	年に2回消防署の指導を受けて昼夜を想定した避難訓練をそれぞれ役割を決めて実施し、避難誘導や消火器の使い方などの指導を受けています。ホーム独自でも2ヵ月毎に自主訓練を行い、通報方法などを確認しています。次回より近隣住民への参加の声掛けを行う予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の誇りやプライバシーを損ねることの無いように接し、言葉かけにも注意している。	接遇に関する法人研修に参加し、ホームで伝達研修を行っています。日頃から丁寧な言葉使いを心がけ、トイレや入浴の際は特に周りに配慮しています。不適切な声かけなどがあれば職員間で注意し合うと共に、法人の抜き打ち訪問による評価制度があり、接遇に関する評価を重視し、課題として取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションを通じて本人の想いを知るように心がけ、利用者の意思を尊重する ように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常時本人の意思を確認した上で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用したり、美容室に出かけてその人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら食事準備を一緒におこなっている。片付けも毎回一緒におこなっている。	食材は生協に注文し、献立は利用者と冷蔵庫を確認しながら決め、足りない食材を利用者と一緒に行っています。一連の流れの中で役割を持って出来る事に関ってもらい、参加できない方にも作っている過程が見えるよう配慮しています。誕生日は希望を聞いて個別に外食へ出かけています。弁当持参の職員も一緒にテーブルに着き、和やかな食事時間となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事はバランスのとれた献立に努めている。1人1人の状態によって食事の形態を変えている。食事、水分摂取量ともにチェックシートに記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科衛生士の来訪により指導をうけ、毎日各利用者に応じた口腔ケアの支援をしている。		

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力、性格を考慮し、その人にあった排泄の支援を行えるよう定期的に話しあっている。	排泄チェック表を参考に個々の排泄リズムを把握したり、利用者のサインを見逃すことが無いように支援しています。重度の方でも座位が保てる方はトイレで排泄できるよう支援しています。個々の利用者に合わせた支援を行う事で利用者の失敗も減っており、自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し内服薬の調整や水分を多めに摂ってもらう、適度に運動してもらう等取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週3回以上、希望時はその都度入浴できるよう配慮している。	入浴は毎日午後から準備していますが、午前や毎日の入浴希望、夜間の入浴にも柔軟に応じながら、希望に沿って支援しています。季節のゆずやしょうぶ湯、希望があれば入浴剤なども使用しながら入浴を楽しんでもらっています。強い拒否の方は無く、タイミングをみながら声かけし、気持ちよく入ってもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の日中の活動や睡眠パターンを記録し安眠や休息に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会等をつうじて職員全体が各利用者の服薬において目的・副作用・用法・用量について理解しておりその上で利用者の状況に応じたコントロールを医師と相談し行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴、現在の能力や性格を勘案し負担とならず楽しんで行える役割を持ってもらったり、楽しみをもってもらよう支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば随時外出の支援をしてる。自分で希望できない方には体調、天候等考慮し随時誘うように配慮している。	天候を見ながら日々ホーム周辺を散歩したり、近隣の商店への買い物や時には遠方のスーパーへ行くこともあります。季節毎の花見やイチゴ狩りに行ったり、全員で水族館へ出かける計画も立てています。また庭で一緒に花を植えたり、少しでも外気に触れてもらう事を大切に支援しています。	

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し1人1人の希望に沿った買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は希望があればその都度支援し、読むことが困難な利用者には代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやベンチをいたるところに設置し思い思いに過ごせるよう工夫している。	玄関は職員が季節の花が常にあるように活け、リビングの壁には行事の写真や利用者で作った季節毎の作品などが飾られています。階段の上り口や廊下に置かれたソファは、利用者の休憩や寛ぎスペースとして利用されています。また室温にも気を配り利用者が快適に過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	使いなれた家具や食器をもちこんでもらい使用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	要所へのてすりの設置やトイレ、流し台など使い勝手の良いように工夫している。	全室畳の居室は、ほとんどの利用者が布団を敷いて休まれており、自身で布団の上げ下ろしをされる方もあります。利用者はタンスやテレビなど使い慣れた品々や家族の写真、好きな図鑑、自宅で世話をしていた人形などを思い思いに持参され、落ち着いて過ごせるよう工夫されています。また身体状況に応じて2階から1階に居室を移ってもらうなど、利用者が安心して過ごしてもらえるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器や掃除道具などわかりやすい場所においている。		